

学校評価シート（自己評価）令和4年度分

ひさみ幼稚園

1、園の教育目標

子どもたちに豊かな環境を保障して、子どもたちが環境との出会いの中で、驚いたり、感動したり、発見したり、考えたり自らの興味や関心の要求の質を高め、豊かなあそびや生活を展開し、人間として一番大切な非認知能力を身につけられる保育を目指している。

2、具体的な目標や計画

幼稚園の教育方針を教職員全体で共通理解を図って保育の質を高めていく。園内外の研修の定期的に行い、教職員間で相互理解と協力体制を整え、幼児理解と適切な援助方法を学ぶ機会を設ける。幼稚園の特色である動物飼育や自然遊びに継続して重点を置き、よりよい環境や設備を整えながら、子どもの心身の健やかな成長につなげていく。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
ICTの導入と実用	A	今保育業界で推進されているICT化を7月中旬から取り入れることができた。タブレットやスマートフォン、PCなどをツールとして保護者への連絡を行うことで、双方のやりとりの円滑化が図れた。また園児名簿や指導要録なども作成しやすくなり、教員の仕事の効率化につながった。さらにバスにGPSを搭載して運行状況を知らせる機能も使用して利便性や安全性を高められた。但し、初めての試みであったため、機器のトラブルや操作方法のミスがあったり、操作の習得に時間がかかったりしたことは反省点となった。
新型コロナウイルス感染症対策	B	昨年度同様、新型コロナウイルス感染症対策を強化した年だった。特に手洗いやうがい、消毒、マスクの着用、検温、換気などの配慮を行った。保護者の出入りを最低限度にして3密を満たす行事を縮小した。パーティーや机を増加させた。しかし、全国の感染者が急増した12月には園内でも感染が広がり、学級閉鎖をせざるを得ない状況になってしまった。年明けからは、さらなる対策の継続と保護者の協力もあり、減少傾向になった。もちつきや創造展、卒園式など大きな行事を開催することができた。

保育者の資質向上	A	現在の保育のトレンドとなる「子どもの主体的・対話的で深い学び」を全教員が意識して、専門性の高い保育に臨んでいた。また、子どもたち一人ひとりにたくさんの愛情を注ぎながら向き合う姿も多く見受けられた。さらに園内外の研修を通じて、学びを深めることができた。園長・副園長を始め主任や担任、補助教員、運動遊び講師の間で十分に情報交換もでき、お互いに技術や意識を高め合うことができた。
新しい保育計画と保育実践	A	教育課程や保育年間計画を見返し、新しい保育方法を導入した。特に年長クラスで「サークルタイム（保育者と子どもによる話し合いの時間）」を積極的に設けるなど子どもの発達を促進することにつながった。行事の在り方も子どもの興味関心に添ったテーマを設ける対話的で主体的な保育を展開することができた。
安全管理と環境整備	A	園庭を含めた敷地が広大なため、安全管理を大事にした。自由遊び中は複数の保育者が必ず園庭にいる体制をとり、子どもの安全を見守った。また、毎日の環境整備や掃除時の点検、学期に1回の遊具の定期点検を綿密に行い、予め危険を回避できるようにしたため、大きなケガや事故を防ぐことができた。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	<p>今年度も新型コロナウイルス感染症対策を配慮しながらの保育になった。手洗い・うがい・消毒・マスクの着用・検温など徹底し、換気などもこまめに行った。園行事の縮小もせざるを得なかったが、子どもたちの心身の発達を助長するため、工夫しながら質の高い保育実践を行うことができた。12月に感染が園内に広がったことは反省点となったが、全体的には昨年の反省を生かした対策ができ、コロナ禍といえども現在の保育のトレンドとなる「主体的で対話的な保育」や「サークルタイム」などを展開できたことは評価に値する。さらに園長・副園長が推奨した園内外の研修会に積極的に参加し、教員たちが資質を向上しようとする姿勢が見られ、それが園全体としての保育力も上がったと思われる。</p> <p>現在保育の世界でも推奨されている ICT システムを導入できたことは革新的であった。保護者と園双方の連絡やバス送迎などが円滑化され、教職員の事務仕事の効率化を実現できたことは大きかったと言える。但し、初の試みで操作の習得に時間がかかったことは課題の一つとなった。今後もステップアップして活用の幅を広げる必要があるだろう。</p> <p>遊具の修復や環境整備、人的配置の見直しもできたことも評価に値する。また、保護者会の役員を中心として、楽しい催し物ができたことも自園ならではの魅力であろう。</p> <p>今後はさらなる保育者の資質向上や働き方改革、バス送迎の安全、魅力ある園内環境、預かり保育の拡充など課題は多い。様々な社会状況の変化に応じながら適切な保育を実践して、「元気で優しくて好奇心旺盛なひさみっ子」の育成に力を注いでいきたい。</p>

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
保育者の専門性の向上	園内外の研修会、保育現場での実践経験、保育教材の研究、教員間の情報交換を活かしたことにより教員の資質が明らかに向上している。今後も保育者としての専門性や能力・技術・良識・適性を高められるように、年齢や性別、経験の枠を越えてチームワークを大事にしながらか職員全体で切磋琢磨していきたい。
安全教育の強化	昨年社会また保育界を揺るがす「園児バス置き去り死亡事故」というショッキングな事件が起きた。置き去り防止装置をいち早く導入し、昨年度中に作成したバス送迎時の安全マニュアルをもとに今まで以上に安心安全な体制を確立していきたい。また、防犯対策として誘拐や不審者などに対処するため「危機管理マニュアル」などをもう一度整備していきたい。さらには地震・火災避難訓練で子どもの意識を高めたりするなど安全教育も強化する必要がある。
新型コロナウイルス感染症対策の継続	来年度は5月8日以降、新型コロナウイルス感染症対策が緩和され、コロナ期前に戻ることが予想される。但し、感染症が完全に消えるわけではないので、子どもの安全面、健康面、衛生面には十分配慮していきたい。特に手洗いやうがい、換気など徹底するとともに、子どもの健康観察を十分に留意していきたい。感染者の状況なども東松山市保育課と連絡を取り合い、柔軟かつ迅速に対応していきたい。
ICTの実用化と教員の負担軽減	保護者との連絡の円滑化が図れたが、教員の事務的業務への活用は少なかった。昨今課題となっている教員の仕事の効率化や負担軽減のためにも、来年度はクラス日誌や週案、保育計画等にICTシステムを活用していきたい。操作方法についても、全教職員が慣れるように、システム会社から頻繁に指導を受けながら習得していくことが大切となるだろう。
動物飼育の活性化	自園の特徴でもある動物飼育にもさらに力を注いでいきたい。昨年一羽のうさぎの死により、命の教育を実践できた。目白大学と連携して『園内におけるより良い飼育環境』の研究を始めていくことになっている。動物が与える子どもの心身の育ちを大切にして、近隣の動物園と提携したり、獣医、飼育員、動物の専門家、大学教授らの指導を仰いだりしながら動物飼育実践に役立てていきたい。

学校評価シート（令和4年度分 園関係者評価）

ひさみ幼稚園 学校関係者評価委員会

日時 令和 5 年 5 月 13 日（土）

18:00 ~ 19:00

出席者：評価委員長

保護者 学校評議員 地元企業関係者

大学教授（保育科）

1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

- ・設定した目標は、遊び中心の保育の中で「非認知能力の獲得」を重視している点が、幼児の成長発達にとって、非常に妥当性の高い教育だと思われる。
- ・目標や計画は「教職員の協力体制」と「幼児理解と適切な援助」に重きを置き、保育の質を向上しようとする意図が窺え、とても適切なものとして認められる。
- ・評価項目の設定も、現在の教育施設で課題となっている新型コロナウイルス感染症対策や ICT システムの導入、安全管理を取り入れており、現在の社会状況に合わせている点が適切だったと思われる。

2. 評価結果の内容は適切であったか

- ・年度の途中ながらも先駆的に ICT を取り入れた点は評価すべきであろう。園と保護者の連絡の円滑化を図ることや教員の負担軽減にもつなげようとする姿勢は園として望ましかったと思う。また、操作方法などの課題や反省も挙げており、今後もよりよく改善していこうとしている点も評価できる。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を重視し、日常の保育や行事の開催工夫し、コロナ禍でも子どもの健全な発達を促進しようとしたと思われる。12月に園内で感染が広がり、学級閉鎖が増えたことは、全国的にも最も感染者数が多かった時期であり致し方ないであろう。その後、さらに対策を強化して感染を抑え、大きな行事を遂行できたことは評価に値するだろう。
- ・保育者の資質向上に重きを置いており、主体的で対話的な保育実践に力を入れてきたところは、近年の幼児教育のトレンドを理解していて、とても良いと思われる。教職員間の情報交換にも重きを置いた点も連絡漏れ防止や保育への意識向上につながったようである。今後も核として、続けてほしい内容である。
- ・新しい保育計画と実践に取り組み、特にサークルタイムを導入とした点は評価に値する。「他児の意見を聞く」「自分の意見を言う」といった態度や思考力や協調性にもつながり、望ましい保育形態だったと思われる。時間がとれないなどの課題もあると思うが、今後も継続してほしい内容である。
- ・安全教育を強化した点も、昨今の子どもが犠牲となる事件が多いので必要不可欠である。遊具の点検や昼食後などケガが起きやすい時間帯の安全対策を講じたことは評価できる。

3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

- ・各項目ともに、幼児教育のトレンドや社会状況の流れを分析し、取り組むべき課題がきちんと挙げられる点が望ましい。
- ・教員の専門性向上と負担軽減は相反するところもあるが、どちらも大事なので適切だと思われる。
- ・社会問題となったバス置き去り事故をうけ、安全教育強化を設定したことは正しいと思われる。
- ・5類になったとは言え、コロナが収束したわけではないので、子どもの健康観察を含めた感染対策を設定している点は望ましい。
- ・新しい試みのゆえ、負担はあると思われるが ICT 化の実用化を掲げている点も評価できる。

4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

- ・教員の専門の向上は、保育力を高めるうえで最重要課題となるので、このまま継続してほしい。但し、教員の負担軽減と相反する点があるので、上手にバランスを取りながら努力して行ってほしい。
- ・バス置き去り防止装置の導入や危機管理マニュアルの整備などに早急にとりかかろうとする姿勢は、評価できる。通常の防災訓練なども含めて子どもの安全教育を徹底していくことが求められる。
- ・5類に移行したとは言え、新型コロナウイルス対策は必要だと思われる。通常に戻しつつも感染状況に応じて、カリキュラムや園行事などを変更する柔軟性が必要となるであろう。
- ・ICT 化についても、教員の業務をより効率化するために、新たに操作方法を学ぼうとする姿勢は望ましい。保育計画などに活用できれば、利便性は高くなるだろう。
- ・園の魅力の一つでもある動物飼育にさらに力を入れようとする点は評価に値する。目白大学の教員や幼少年教育研究所自然部会と連携をとり、動物飼育の研究を進める試みは楽しみである。その中で子どもの成長につながる飼育環境が明らかになると良いだろう。動物飼育を生かした保育実践は、園の特色でもあるので今後も継続して行ってほしい。